

選択科目（地理歴史） 日本史

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I ヤマト王権の支配機構	記述	30	80分
II 中世の女性史	記述	30	
III 近現代日本の文化史	記述	40	
合計		100	

【出題の基本方針】

基本的には教科書を中心とした学習を積み重ねることによって得点できる内容・レベルの出題とした。そのうえで、歴史用語の機械的な丸暗記では正答できない出題を織り交ぜることを心がけた。

【学習のポイント】

- ・政治・経済・社会・文化史などの諸分野を幅広く学習することが重要である。やはり近現代文化史は受験生にとって苦手な傾向が見受けられるので、苦手意識を持たず、意欲的に学習してほしい。
- ・教科書を中心に諸事件・事象の流れと関係を論理的・文脈的に把握することが重要である。それと同時に教科書や史料集に所載されている図版・表・写真などにも注意を向けてほしい。
- ・史料集を座右に置き、教科書と併用することは極めて効果が高い。その史料の趣意を記した重要箇所などは、用語を含めて内容を正確に理解しておきたい。また古地図などにも親しみ、地理的・立体的な知識の習得を心がけてほしい。
- ・一方向からだけの問いではなく、多面的からの問い方に対応できないと正答できない問題を含んでいるため、そうした出題形式にも慣れておく必要がある。
- ・漢字のミスや部首などの不正確な記述、判読しにくい漢字が依然として目立つ。それらに対しては厳正に対処し、誤答として扱うので注意が必要である。事象名・人名・地名などの歴史用語は正確で楷書体の読みやすい漢字を書くことが必須と心得てほしい。
- ・近年の高校教育の趨勢に準拠し、比較的新しい時代の出題の割合を増やしている。今後はそれらに関する系統だった正確な知識の習得が必要となる。
- ・歴史観・歴史認識を問う問題なども今後一定の割合で出題される可能性がある。その場合はその歴史観・歴史認識が生み出された時代の知識とその歴史認識の題材となっている時代（古代～近現代）双方についての知識、さらにはそれにまつわる海外（東洋・西洋）の知識も必要な場合があるので、それらに対応した幅広い知識の習得に心がける必要がある。